資料１

稲沢市人口ビジョン（概要）

□位置づけ

- 本市における人口の現状を分析するとともに、人口に関する市民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するもの
- まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する「稲沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定する上で重要な基礎資料

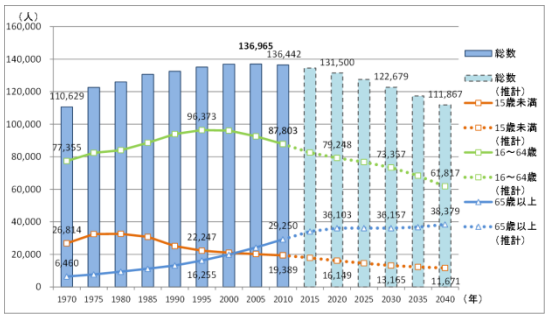
□対象期間

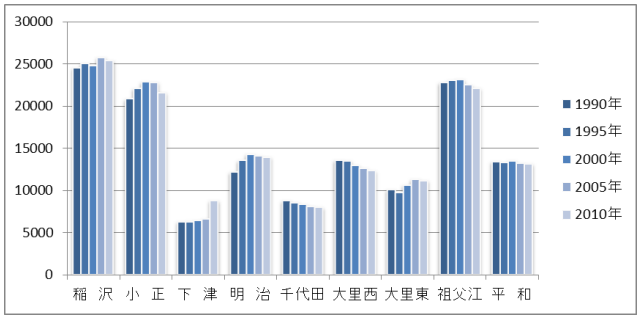
- 2015（平成 27）年から 2060（平成 72）年

■人口動向

□人口減少と少子化・高齢化　－地区によって人口の推移に違いが見られる－

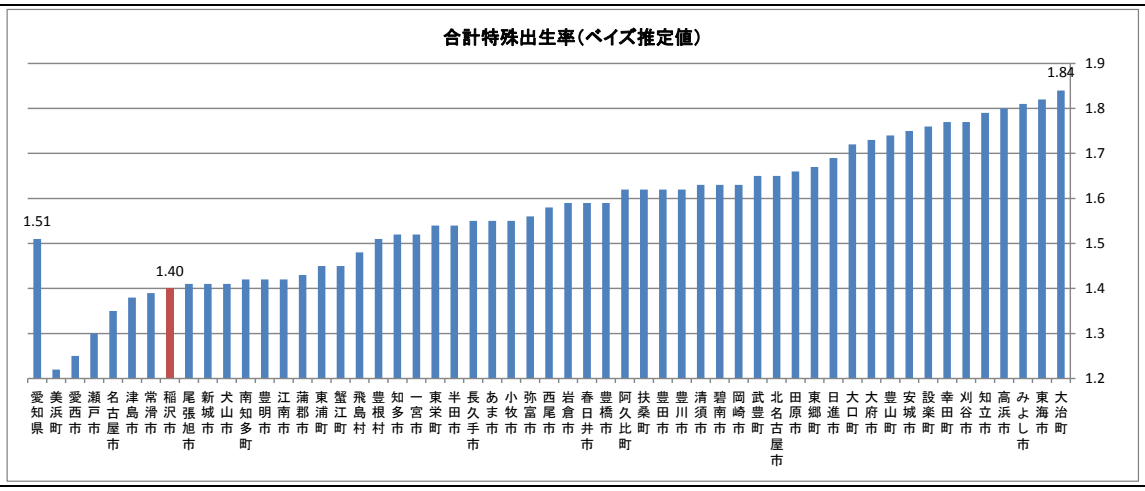
- 既に人口減少時代に突入。少子化・高齢化も加速度的に進行。
- 下津地区では、ＪＲ稲沢駅周辺開発により人口が急増。他地区は横ばいまたは減少。人口減少局面を迎えた時期は地区によって相違





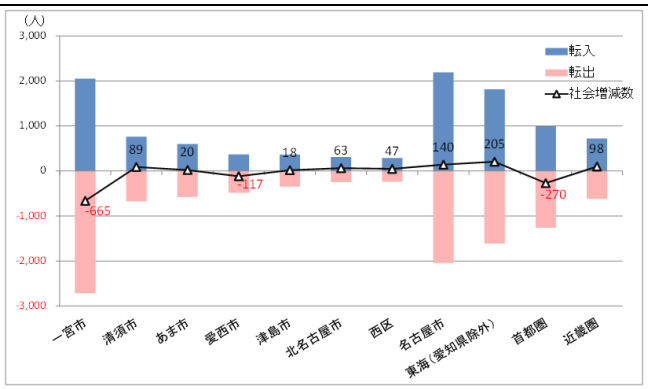
□出生　－合計特殊出生率は県内市町村でも低い水準－

- 平成 20～24 年の人口動態保健所・市区町村別統計によると、稲沢市の合計特殊出生率は 54 市町村のうち第 48 位



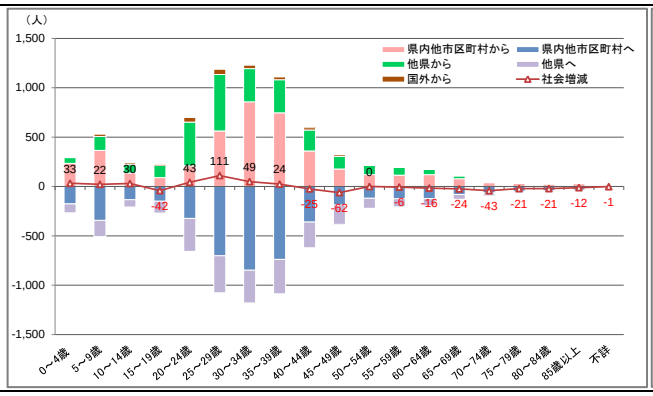
□転入・転出　－一宮市等へ転出超過－

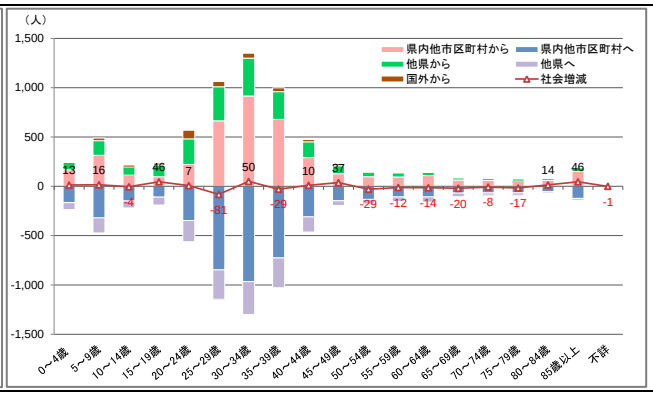
- 転出超過は一宮市や愛西市等
- 転入超過は北名古屋市や清須市等
- 首都圏への転出超過も一定数見られる



□性別・年齢別の移動　－人口移動が少ない－

- 男性は就職や結婚、持家取得といったライフステージにおいて転入超過傾向であるが、それ程大規模ではない
- 女性は男性に比べて転入超過の規模が小さいが、若年層で若干の転出超過が見られる

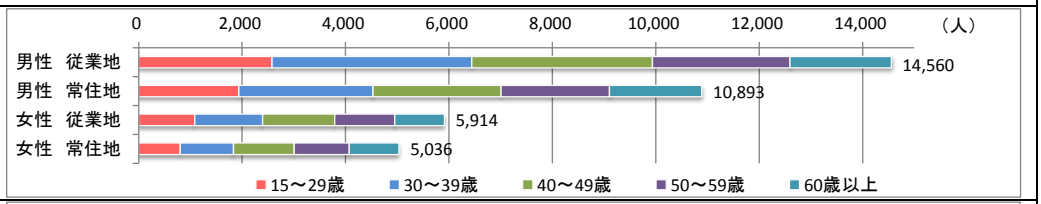




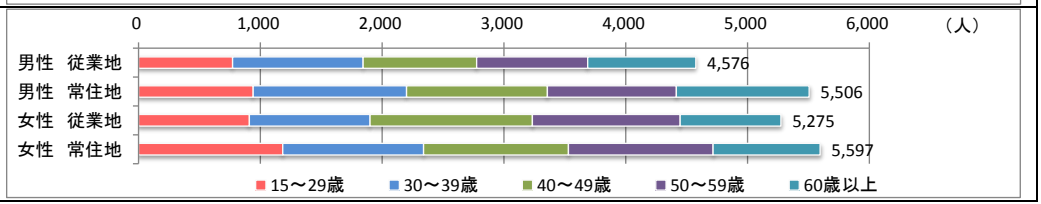
□雇用・就労　－第三次産業の雇用の場が不足－

- 製造業では従業地が常住地を大きく上回っており、市外からの労働力の受け皿となっている
- 卸売業、小売業や建設業では常住地が就業地を大きく上回り、雇用の場を他市町村に依存、第三次産業の雇用供給が少ない

製造業



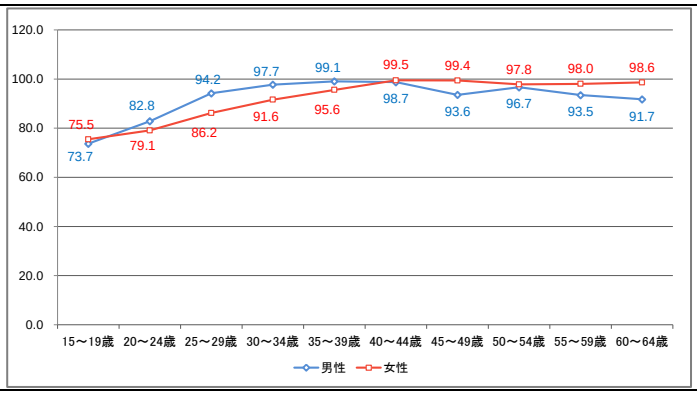
卸売業・小売業



□昼夜間人口比率

－女性の雇用の場が不足－

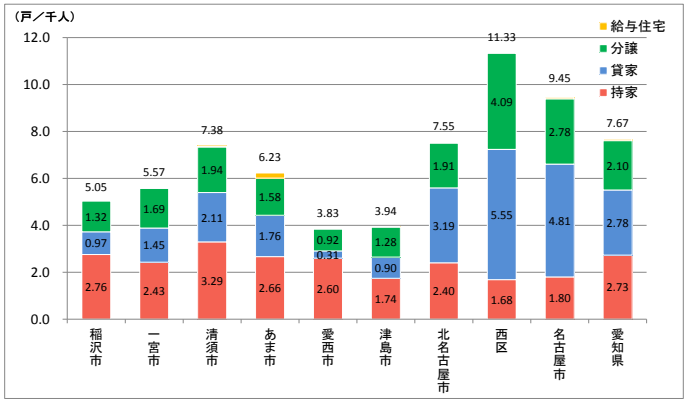
- 若年女性が 100%を下回る。女性の雇用の場が市外に
- 女性の年齢別就業率は既婚者が未婚者を大きく下回り、市内に女性の希望に見合った雇用が不足と予想される



□住宅

－分譲・貸家の着工件数が少ない－

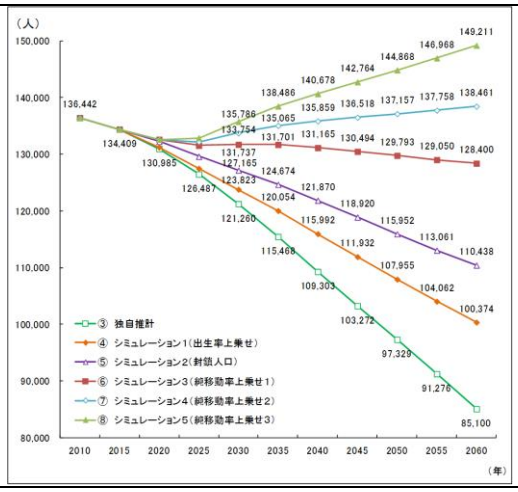
- 人口千人あたり住宅着工件数は、愛西市や津島市に次いで少なく、内訳として、分譲や貸家の件数が少ない



■将来人口

□将来人口シミュレーション　－出生率及び純移動率の改善により一定の抑制効果－

- 現在のまま人口が推移すれば、2050（平成 62）年には 10 万人を割り込み、2060（平成 72）年には 2010（平成 22）年より 4 割近く減少し、約 8 万 5 千人になる見通し
- 国の仮定値同様に合計特殊出生率が上昇する場合、2060（平成 72）年には約 10 万人と推計
- そこに純移動率の改善条件を加えると、●（平成●）年を底値として人口が一時的に回復、2060（平成 72）年に約●人まで維持可能



■稲沢市の人口の課題

□四つの課題の解消が必要

- 以下の四つの課題がある。何も手を打たないと、2060（平成 72）年には 8 万 5 千人にまで減少すると推測。様々な状況が重なり合うため、総合的な対応が必要
  - 製造業以外の雇用の場が不足　→若者や女性が希望する第三次産業の就業機会が少ない。
  - 住宅の需要と供給のミスマッチ　→特に貸家や分譲の物件が不足。稲沢市で働く人が一宮市や愛西市に流出。名古屋１０分圏の強みを生かし切れていない。
  - 県内でも低い水準の合計特殊出生率　→晩婚化や生涯未婚率の問題は少ないにも関わらず、合計特殊出生率は県内でも低い水準にある。
  - 人口減少や少子化・高齢化進展の地域間格差　→既に長期にわたる人口減少・少子高齢化が進んだ地域が存在している。

■各種アンケート結果

現在集計中

■人口の将来展望